



女の子の育て方

「内弁慶で、外で自分を出さないのに家では生意気で困ってしまう」
「いつも周りを気にしている、もう少し自信を持って行動してもらいたいな」
「女の子は友達関係が心配」
「悩みをためてしまい、親にはうちあけてくれないから心配」
「反抗期突入でいつもイライラ。親はどのように対応したらよいのかしら」



光塩女子学院初等科
教務主任

戸張 百合子 先生

「男の子の育ては大変、女の子は育てやすくっていわね」なんて言われるけれど、女の子の育てだって一筋縄ではいかないですよ。性格や成長により、多種多様な悩みを抱えている女の子の保護者様も多いのではないのでしょうか。女の子の特徴と育て方について、そのポイントを、女子教育の現場にいらっしやる戸張先生にお話しいただきました。

多くの保護者様と面談をしている中で、お家での様子を聞くとビックリすることがあります。「学校では全くそんなことないですよ、しっかりしていますよ」ということがよくあります。

お子様は学校での顔とお家での顔があって、使い分けています。学校でしか見せない部分と、お家でしか見せない部分があるのが普通のことです。お子様は外でいろいろ頑張っているのに、お家では言いたいことを言わず、時にはワガママを言っても受け止めてもらえる、甘えられる、という環境を作ってあげることが大切ですね。

逆にお家で自分が出せないことの方が問題です。お家できちんとしていて、学校で発散してしまったり、先生にべったり甘えすぎてしまったりします。内弁慶のお子様は、お家が安心できる環境なのでしょうね。外では頑張っているのに、ぜひお家では受け止めてあげてください。学校で嫌なことがあっても明日また頑張る力になります。

外で頑張っているとはいえ、なんでもかんでも目をつぶってしまうと、そういう基準で育ててしまいます。各ご家庭の方針があると思うので、許してはいけないところは守ってください。挨拶をする、靴をそろえるなど基本的なことからでよいのです。そういうことが身につけているお子様は学校でも自然と振る舞えます。

宿泊学習の様子を見ると、お家で全部やってもらっているかな？というお子様と、自分で行動できているお子様の違いがよく分かります。お子様には、宿泊の為の大きなバッグに『自分で』荷造りをするように伝えていきます。荷物を詰める時、お家の方が全部やっていると、お子様はどこに何が入っているかわかりません。「生活力」がそういうところから出るので。保護者様が全部やってあげた方が早いしきれいだけれど、子どもが育つチャンスを奪わないように、待つ我慢が必要ですね。

身の回りの整理整頓も同じです。女の子だからって一律で整理整頓が男の子より得意！とも限りません。机の中がグチャグチャだったり、ランドセルの中からいつのプリント！？というものが出てきたりするお子様もいらっしゃいます。整理整頓が苦手なお子様には、『今日伝えることはないか』『もらったものはないか』日々一緒に確認していくところから始め、『声かけだけをしていく』『お子様から声がかかるのを待つ』というように、手のかけ方を少しずつ様子を見ながら引いていくことが大事だと思います。ずっと保護者様が確認していると、いつまでも自立できず確認し続けなければいけなくなってしまいます。

大人の顔色をうかがってしまい、自分の意見が持てない女の子もいます。お買い物に行っても、「これがいい！」ではなく、「ママはどれがいいと思う？」「ママはこれかな」「私もこれがいいと思っていた！」となるそうです。また、「いまお絵描きしてもいい？」「いまトイレに行ってもいい？」など自分の行動を確認するお子様もいます。いつも指示を待ってしまうお子様もいます。こういうお子様は失敗するのが怖く、心配性で、自己肯定感が低いのもかもしれません。成長とともに自然に自信をつけていくお子様もいますが、小さな成功体験を積ませてあげることと、その過程で失敗してしまったとしても、「大丈夫、大丈夫」と励ましてあげることが大切です。

始めはある程度まで導いてあげて、「ここからは自分で決めていいよ、考えてごらん」と促してあげましょう。自分で自由に考える枠が狭いまわりの顔色をうかがって大きくなってしまっただけは心配です。「何を選んでもママは大丈夫だよ」と受け入れてあげましょう。

高学年になると、女子特有の感じが出てきて、お友達関係を心配される保護者様もいらっしゃいます。特定のグループができることもありますが、それに属さないお子様もいますし、入りたいけれど入れないお子様もいます。休み時間に校庭に飛び出し、汗だくになって戻ってくるお子様もいれば、ずっと一人で読書をしているお子様もいます。光塩女子学院では、「全員必ず休み時間はこうしなさい」ということはしないので、過ごしたいように過ごしていただいています。「一人でいる力」も大事な事だと思っています。

ご家庭で大切なことは、悩みがあったら打ち明けられる環境を作っておくことだと思います。「いつでも聞くとお子は嫌がります。また、保護者様もお忙しいと思うので、お子様が話したいけれど話せないということの無いように、行き帰りやお風呂の時間、寝る前など、お子様と会話する決まった時間を持つといいですね。

また、お友達関係に限ることではないですが、知合いのスクールカウンセラーの先生から「家に帰っておいしいご飯と暖かいお布団があればいいのは大丈夫、乗り越えられる」というお話を聞いたことがあります。やはりそれだけ、「安心して同じリズムで安定した生活をする」ということが非常に大事な事なんだと思います。

外でいろいろあっても、家族が仲良く元気で、おいしいご飯を食べて暖かいお布団で寝ることで、次の日へのパワーチャージができていくんだなと思うと、それをしっかり整えてあげれば、ある程度の悩みは淘汰され、

成長していけるのかなと思います。ただ、悩みによっては深刻な場合もあり、カウンセラーへの紹介等が必要になる場合がありますので、やはり「いつでも聞くと」という環境を作っておくことは必要ですね。

反抗期に突入したお子様に戸惑う保護者様もいらっしゃるかと思います。反抗期は、自然の成長過程であり、大切な通過点です。

真面目でしっかりしたお母様ほど、理詰めで追い詰めてしまう傾向があります。しかしお子様は「分かった、お母さんの言うことは分かったよ」などとは絶対なりません。大人が「分かった、分かった、ごめんね、お母さんが悪かったよ」と一歩引いてあげられると良いですね。反抗期のお子様はとてどもアンバランスで、急に甘えてくることもあります。その時はどうぞギュッと抱きしめてあげてください。本人も自分のコントロールができず、何か分からないけれど腹が立ったり、大人の言葉に敏感になりイライラしたりしてしまいます。そういう時は少し距離を置きましょう。お互いが真っ向からカーッと衝突しないようにできるといいですね。

反抗期真っ只中だったお子様がふと気づくと非常に落ち着いて安定し、立派なお姉さんになったな、と思うことがあります。反抗期を越え成長したお子様を見ると、やはり反抗期も成長の段階で必要な過程だと感じます。一時のことだと思って大人がうまく対応してあげましょう。ただ、反抗期の中でもやはり家庭の方針を守ることは必要です。「友達がみんなやっているのになんでダメなの」と言われても、家庭としてダメなものはダメで取り合わない姿勢を貫いてよいと思います。冷静になったときにご家庭の方針をきちんと伝えてあげられたらよいですね。

男の子の育児は、走り回るのを追いかけたり、一緒に思いっきり遊んだり、体力が必要。一方、女の子の育児は、ロケ達者で生意気なことを言われたり、思春期特有の反抗期に対応したり、精神力が必要ですね。でもきっと、お母さんも小さい頃たくさんご両親に反抗して今があるのではないのでしょうか。

大きくなって落ち着いたとき、一緒にお茶をしながら楽しい会話をすることを夢見ながら、女の子の育児を乗り越えましょう。日々いろいろなことがあると思いますが、でも、家に帰っておいしいご飯と暖かいお布団があればいいのは大丈夫、乗り越えられる！明るく楽しく女の子の育児を楽しみましょうね！



光塩女子学院初等科

理念「ロウソクの、自らは燃えて他を照らし、塩の、自らは溶けて味をつけるように、本物の愛に生かされた成熟した女子に育つこと」
東京都杉並区にある女子校。幼稚園・初等科・中等科・高等科を擁している。「人を大切に育てる」ことを大事なミッションとし、学習面では「共同担任制」により幅広く児童それぞれの持ち味を見ていき、「教科専科制」により専門性を深めていくことを特色とし、つねによりよい教育を追求。より深く自分を見つめ、考え、そして両親、教師、友人との関わりを通して、短所を含めた自分をありのままに認め、同様にまわりの人をも受け容れていくことを学び、
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南2-33-28
TEL: 03-3315-1911

